

■起業支援の事例報告（２）

「スタートアップのエコシステムの構築を目指して」

神戸市 医療・新産業本部 企業誘致部 新産業創造担当課長
多名部 重則 氏

●「スタートアップのエコシステム」とは

神戸市の医療・新産業本部の多名部です。私は特に「大都市ならでは」の起業支援の1つの手法について、今、神戸市で行っている事例を紹介させていただきたいと思います。

「スタートアップのエコシステム」という言葉でイメージできる方とできない方の2通りがおられると思います。ここで言う「スタートアップ」とは、起業家は起業家でも少し特殊で、ITを使って何か新しいプロダクトサービスをつくろうとする起業家です。具体的に超巨大企業になった例を挙げますと、Facebook や Google、それから超巨大とまではいきませんが、Airbnb や Uber、Instagram のような、いわゆるスマホのアプリを開発するような起業家をイメージしていただければ良いと思います。

「エコシステム」という言葉はシリコンバレー用語です。前述の Facebook 以下の会社は、すべて米国西海岸のシリコンバレーで生まれて、世界的に巨大化していった会社ですが、実はシリコンバレーにはエコシステムと言われる、先輩の起業家が次世代の起業家を資金面とソフト面でサポートする仕組みがあります。

アメリカでは他にロサンゼルスやオースティン、アジアでもシンガポールや中東のテルアビブ、ヨーロッパのパリ、ロンドン、ストックホルムのようなまちにはそのようなスタートアップを生み出すエコシステムが成立しています。

しかし、日本では、東京で自然とこのような流れが生まれつつありますが、他はなかなかそ

のような状態にはならず、日本でスタートアップが巨大化するようなケースは少ないと言えます。

その中で、民間も含めてなかなかそのような仕組みができないのであれば、神戸市が最初のリスクを取るという考え方で始めたのがこの取り組みです。

<神戸市が目指すスタートアップの仕組み>

スタートアップのエコシステムとはどういうものなのか、海外の方から聞いたところ、「スタートアップはバクテリアみたいなもの」と言われました。バクテリアは水と空気と養分と温度等が揃えば自然に発生します。ところが、あるレシピをここに投入すると、バクテリアが発生しやすくなります。

スタートアップの場合は、大企業 Large Companies、研究機関と教育機関を意味する Universities、イベント Events、市民の巻き込み Community Involvement があり、その中に Seed Accelerators と Venture Capitals というレシピが投入されると Startup Companies が生まれやすくなります。

そのような構想、仕組みをつくることができればと思いながら、平成 27 年 4 月から神戸市はこのスタートアップ支援を始めました。したがって、長年やってきたのではなく、突然、始めた取り組みだということです。

一方では、1 年余り取り組んできた中で、この業界ではかなり注目される取り組みになってい

るのではないかと思います。

●平成 27 年度の起業・創業支援の展開

それでは、昨年取り組んだ事業を紹介したいと思います。

まず、「キャリア教育起業家派遣プログラム」は、スタートアップするにあたっての社会の抵抗感、学生の抵抗感に対して、起業しても構わないという機運を醸成するためのプログラムを教育の現場で展開したものです。

さらに、大学生を対象に、シリコンバレーに派遣するという事業を行っています。

そして、Kobe Global Startup Gateway とアクセラレーションプログラムがセットで用意されています。Kobe Global Startup Gateway は、ビジネスプランコンテストで優秀な方を選びます。選んだスタートアップに対して、アクセラレーションプログラムで専門家からメンタリングによるアドバイス等があり、活動資金を提供して、最終的に投資家の前でプレゼンを行います。

これがシリコンバレー型のアクセラレーションプログラムの概要で、最終的に次の資金調達、あるいは次の事業連携に結びつけるためのプログラムとなっています。神戸市の場合は 3 ヶ月間、シリコンバレーの場合も 3~4 ヶ月の短期間に超重点的な支援をするというものです。要するに、大人が寄って集って精一杯の面倒をみて、それで勝負するというプログラムです。

▶ シリコンバレーへの人材派遣プログラム

キャリア教育の派遣プログラムとしては、昨年、中学校、神戸大学あるいは神戸高専で起業家教育を行いました。

シリコンバレーへの派遣プログラムは、昨年の 8 月 23 日~27 日の 5 日間で行われ、定員 20 名に対して 44 名の応募があり、大学生を中心に学生 13 名と起業家等 3 名が参加しました。学生 13 名の内訳は大学生と大学院生がほとん

どでしたが、1 人だけ高校生が含まれていて、私立灘高校の 1 年生がシリコンバレーへ行きました。

シリコンバレーでは Yohoo! や Github 等を訪問しました。最終日には、500 startups というシリコンバレーで有名なアクセラレーター、起業家支援団体のオフィスを訪れましたが、このツアーのためにピッチコンテストを企画してくれました。

▶ KOBE Global Startup Gateway とアクセラレーションプログラム

メインの取組みであるアクセラレーションプログラム、KOBE Global Startup Gateway です。今、2nd Batch の募集を終え、最終審査会も終えて、先日、2nd Batch のプログラム対象者はチームを発表したところです。

さらに、選んだスタートアップたちに KOBE Seed ACCELERATION PROGRAM を 3~4 ヶ月行います。その拠点が神戸スタートアップオフィスです。

＜神戸スタートアップオフィス事業＞

▶ 神戸シード・アクセラレーション・プログラムの仕組み

そのスタートアップオフィスの事業概要を紹介しますと、神戸市から神戸新聞社と関西学院大学に委託して、それを KDDI、Synergy Marketing、AXEL MARK、Microsoft、楽天等の全国的な大企業がパートナー企業となってサポートする仕組みになっています。

▶ スタートアップオフィス概要

具体的には、スタートアップオフィスは三宮駅前のミント神戸の 14 階にあります。指導に当たっているのは、西本凌さんと徳山寿吉さんのお 2 人で、特に西本さんは、元々京セラで仕事をされていて、その後、ミツカングループの代表取締役にヘッドハンティングされたり、デジタルガレージの COO をされたり等、ビジネ

スについては超一流の方です。

➤ **プログラム内容**

実際のプログラムの内容は、例えば、これから始まる第2期のプログラムを見ますと、7月～9月頃まではメンタリング等を実施して、その間、1チームあたり最大180万円の活動資金を提供するプログラムになっています。この期間はこのビジネスを成功させるのに注力してくださいという意味です。そして、最終的に10月になると思いますが、投資家の前でデモデイを用意しています。

ご覧いただいている写真は、メンタリングの様子や楽天に行った時の様子を紹介しています。

➤ **ホームページ**

この事業で重要なのは、スタートアップの方に参加してもらうということです。そこで一番重要になるのが、ホームページのトップ画像です。この印象が良くないと、スタートアップの方はその事業に見向きもしてくれないので、かなり役所らしくないデザインのトップページにしてwebページを運営しています。

➤ **参加基準**

参加基準は「ITを活用した新たなプロダクトやサービスの創出するスタートアップ」ですが、ポイントは居住地・国籍の制限がないということで、どこの方でも参加できるようなコンセプトにしています。海外から来てもらっても構わないという考え方です。

さらに、このプログラムを受けた後もどこへ行ってもらっても構いません。市長の言葉を借りると、「次の段階に、世界に向けて雄飛していただきたい」という説明をしています。

自治体でこのようなプログラムを行うと、どうしても地域限定になることが多いのですが、このように目線が高くて優秀な方が一旦でも神戸に来て、コミュニティを生んで、交流することをまちの活性化と呼びずして何と呼ぶのかということです。そうしないと集まっても来ない

ので、このようなコンセプトになっています。

➤ **メンタリング・セッション**

メンタリング・セッションも、日本マイクロソフトやアクセルマーク等から有名な方に参加していただいて、非常に濃いセッションを行っていただいています。

➤ **第1期生の成果**

第1期生を5月に送り出しましたが、その中の1チームを紹介させていただきます。

これはブラジャーのオンラインフィッティングサービスの事業です。女性でピッタリサイズのブラジャーを着けている方が少ないということと、試着を嫌がる方が多いということから、web上でフィッティングするというサービスを展開しています。

これに取り組んでいるのは、本間さんという女性を中心としたチームで、先日、総理官邸で内閣府の女性のチャレンジ賞を受賞されました。何よりビジネスという点で、このチームは、次の資金調達でシリーズAからシリーズBにかけての金額を調達予定になっています。

➤ **第2期のプログラムチーム**

第2期のプログラムチームはいろいろなものがありますが、一例として、ハンドメイドを趣味とする人たち向けのウェブメディアがあります。ハンドメイドをされている方は、どのように作られているのか、材料は何を使っているのか等の情報をあまり共有されていないようなので、それを共有するためのサービスの事業です。

➤ **コーポレートフェロシップ**

このような取り組みをしていく上でどうしても必要なのが、このような考え方です。コーポレートフェロシップ15年上期は、民間のIT企業の方に神戸市役所へ来ていただいて、3ヶ月間一緒に働いてもらいました。

これは、このような事業をするためには、どうしてもIT業界へのネットワークが必要ですが、私にも元々そのようなものはありませんの

で、それを得るために外の人材に来ていただいて、一緒に仕事をするという取組みを行いました。下期も Yahoo! とコープこうべの方に来ていただいています。

●平成 28 年度の起業・創業支援の新たな展開

今年度は、また新しい取組みを展開しており、日本初の取組みを 3 つ行います。

1 つ目が、IT 人材の登用で、研修のような形で 3 ヶ月間来てもらうのではなく、1 人は Code for Japan の代表理事をされている全国ブランドの関治之さんに、チーフ・イノベーション・オフィサーとして来ていただき、非常勤嘱託職員として活動してもらうことにしました。

もう 1 人は吉永隆之さんで、任期付一般職係長という形で、IT イノベーション専門官という役職で働いていただきます。普通の市の職員と同じように採用して、フルタイムで働いてもらうことにしています。

<500 Startups Kobe Pre-Accelerator>

その中で今年度の最大の事業となるのが、シリコンバレーの超有名なアクセラレーター VC ファンドである 500 Startups と神戸市との間でパートナー協定を結んで、神戸市でプログラムをするという事業です。7 月 1 日でエントリーを締め切り、8 月 1 日から行う予定になっています。

このプログラムの特徴は、実際にシリコンバレーでアクセラレーションプログラムを行っているメンバー約 20 人が神戸に来て、メンタリングをするということです。聞くところによると、日本でこれを行うのはもちろん初めてですが、アジアでこのような有名アクセラレーターを活用するのも初めてですので、500 Startups の方も非常に力を入れていて、本場のシリコンバレーで行っているプログラムでも集まらないようなメンター陣が集まったドリームチームが

来て、神戸で活動する予定になっています。

最終的には 9 月 9 日のプログラムの最終日にデモデイを開催して、次の外部資金調達に努めていただく予定です。

このプログラムの特徴は、市の予算として計上された 8,800 万円のほとんどが、民間企業からの協賛金によって賄われているという点です。このように、各社に多大なご協力をいただいています。

●今後の取組み方針

以上、いろいろな取組をしてきましたが、今後の取組方針については、端的に表すと「?!」という表現になります。「次に何をするのか、私自身も分からない。ただ、ビックリするようなことをしていこう」という考え方をしています。神戸市はこのような取組みを進めさせていただいています。

以上で私の発表を終了します。ありがとうございました。